

●グローバル化時代の医療・検査事情 10

雲南の旅 その1
なぜ雲南か？

いわもと あいきち
岩本 愛吉
Aikichi IWAMOTO

I. 雲南省

雲南省は中国南西部に位置し、西側はミャンマー、南側はラオス、ベトナムと国境を接する。北西の一部でチベットと接する他、北部は四川省と、東部は貴州省、広西壮（チワン）族自治区と接している（図1）。雲南は日本語では無論「うなん」と発音するが、中国語では「ユンナン」、人によっては「ユインナン」と聞こえる。中原（中華文化および漢民族の発祥地とされる黄河流域の大平原）から見た場合、（いつも雲のかかった）雲嶺山脈のさらに南という意味で雲南と名付けられたらしい。

インド洋の南海上からゆっくり北上したインド大陸（インドプレート）が、4,000 万年ほど前にユーラシア大陸（ユーラシアプレート）にぶつかり、下に潜り込みながら押し続け、その活動は今も続いているという¹⁾。現在もインドプレートは一年に 5cm ほど北北東に進んでおり、ヒマラヤ山脈は 1cm ずつ高くなっている。この壮大な地殻変動の最大の産物はヒマラヤ山脈だが、雲南省北部～四川省の辺りは食い込んでくるインドプレートの東端にあたり、今も地殻変動が止まない。この辺りでしばしば直下型の大地震が起こるのも、大陸を動かすプレート・テクトニクスに起因する。空路インドのムンバイに行く際、雲南省北部からミャンマー辺りで見下ろすと、幾重にも続く深い山脈が地球に刻まれた深い皺のように見える。片や地上に降りて雲南を旅すると、雨水で山が削られ谷となり、地形が変わっていく様子がよく分かる。さらに場所によっては、自分は巨大な地殻変動のまさに断端に立っているのだと実感できる。これから記述する雲南シリーズの基本は、地方衛生研究所と保健所機能を併せ持つ各地域の雲南省疾病預防控制中心（Yunnan Center for Disease Control and Prevention : 雲南 CDC）の見聞記と意図しているが、雲南の地勢や人々の生活についてもお伝えできればうれしい。



図1 雲南省の位置

標高 1891m にある省都昆明（クンミン）の気候は温暖で、一番寒い 1 月の最高気温が約 15℃、最も暑い 5 月で約 24℃ と、カリフォルニアのような気候である。しかし雲南省は広い。チベットに接する北西部の香格里拉（シャングリラ）は標高 3,000m 以上ある高山気候で、チベットとの境にある標高 6,740m の梅里雪山（ミンリンカンリ）は人を寄せ付けない未踏峰である。また、最南西部に位置する西双版纳（シーサンパンナ）は標高約 500m の亜熱帯気候だ。そこには中国科学院の素晴らしい植物園や熱帯雨林がある。

標高 1891m にある省都昆明（クンミン）の気候は温暖で、一番寒い 1 月の最高気温が約 15℃、最も暑い 5 月で約 24℃ と、カリフォルニアのような気候である。しかし雲南省は広い。チベットに接する北西部の香格里拉（シャングリラ）は標高 3,000m 以上ある高山気候で、チベットとの境にある標高 6,740m の梅里雪山（ミンリンカンリ）は人を寄せ付けない未踏峰である。また、最南西部に位置する西双版纳（シーサンパンナ）は標高約 500m の亜熱帯気候だ。そこには中国科学院の素晴らしい植物園や熱帯雨林がある。

日本の総面積 378,000km² より広い 394,000km² に、日本の約 1/3 の人口約 4,500 万人(2007 年)が暮らす。雲南は中国で最も多い 25 の少数民族が暮らす省だが、漢民族が 67% と大多数を占める。少数民族の中では彝(イ)族 11%、白(ペー)族 3.6%、哈尼(ハニ)族 3.4%、傣(タイ)族 2.7%、壮族 2.7%、苗(ミャオ)族 2.5% などが主要な少数民族を構成している²⁾。現在タイやラオスに住むタイ民族は、南詔の時代(738-902 年)には雲南省西部の大理市や保山市(バオシャン)周辺におり、南下した主力と同じルーツを持つ民族が、傣族として現在も南部を中心に雲南省で暮らしている。

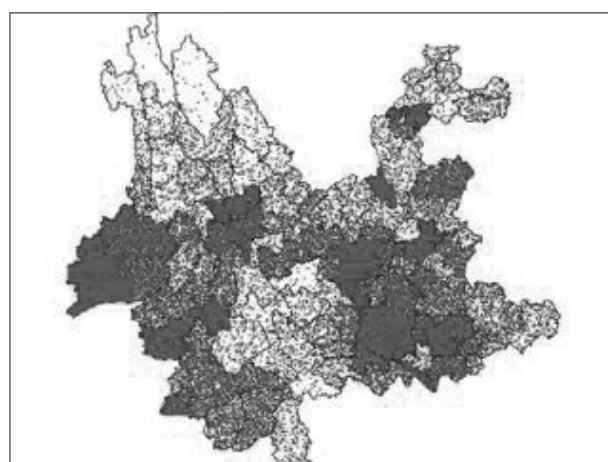
雲南は中国とインドを結ぶ西南シルクロードが通る交通の要衝で、有力な地方勢力が割拠した。唐代(618-907 年)にはチベット・ビルマ語族の南詔が、宋代(960-1279 年)には白族の大理国(938-1253 年)がこの地を治めた。モンゴルによって征服された後(1253 年)、明白な独立国としては成り立たなくなったが、中原の中央政府の威光も届きにくい遠距離にあり、雲南各地で地域勢力が並び立つ状況が近年まで続いたようである。省都の昆明(クンミン)は人口も多く、城壁が取り壊され、過去を忍ばせる遺跡は中心部に残された城門のみだが、雲南には楚雄(ツーシュン)、大理(ダーリ)、麗江(リージャン)など立派な城門と城壁を擁し、城壁都市として一国一城の面影を伝えている都市が多い。

Ⅱ. なぜ雲南を選んだのか

私がどうして中国を海外の共同研究相手として選んだかについては、2008 年のモダンメディアで記述した³⁾。2005 年当時、先進工業国の側面を強める中国沿海部と、感染症の負荷の高い農村部と、どちらにも興味があった。東京大学医科学研究所の共同研究相手としては、中国の科学研究を代表する中国科学院を選んだのだが、今でもその判断は間違っていなかったと思っている。ただし、自分では中国農村部の実態も見てみたかった。中国で最もエイズ患者が多いのは雲南省だ。ゴールデン・トライアングル(タイ、ラオス、ミャンマーの国境が接する地)に近接しており、もともと薬物使用者が多い。1987 年、雲南省で初めて発見された HIV 陽性例は外国人旅行者だった。1989 年、ミャンマーと国境を接する



1989 年：146 例



2012 年：104,981 例

図 2 雲南省における HIV 感染の急速な拡大
(李洪部長提供)

雲南最西部に位置する瑞麗市の薬物使用者の間で、146 人の集団感染が報告された。それ以降、雲南省では HIV の流行が急速に拡大し、2012 年までに 104,981 例が報告された(図 2)。

Ⅲ. 初めての雲南

私が初めて雲南省に足を踏み入れたのは 2009 年 3 月だった。厚生労働省(厚労省)から「第 4 回東南アジア HIV/AIDS 行政官会議」をアジアのどこかで企画してほしいと依頼され、第 1 候補として中国雲南省昆明市を提案した。その時まで雲南に行ったこともなく、準備期間も短かったが、地元雲南省の李洪(Li Hong) 雲南省疾病預防控制中心(雲南 CDC) 部長はじめ中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、カンボジア、マレーシア、ラオス、フィリピンの保健



写真1 アジア行政官会議の参加者



写真2 雲南 CDC におけるディスカッション



写真3 メサドン代替療法施設を見学

担当行政官や大学等で HIV/AIDS に関わる研究者、WHO 西太平洋事務所、WHO ベトナム事務所、国際エイズ学会事務局の担当者、日本から厚労省やエイズ予防財団の担当者が参加して、2 日間の充実した会議を開催することができた（写真1）。

一行は雲南 CDC 本部も訪問し、陸林 (Lu Lin) 雲南 CDC 所長（当時）や担当者とアジア各地における HIV の流行や対策について意見交換し（写真2）、雲南省が運営する薬物使用者に対するメサドン（美沙酮）代替療法施設を訪問した（写真3）。メサドンは経口合成鎮痛薬で、オピオイド受容体に作用してヘロインなど同様の効果を示す。麻薬依存者の離脱療法や維持療法に用いられるが、日本では合成麻薬として規制されている⁴⁾。欧米や中国のメサドン代替療法施設では麻薬常用者に対し、メサドンを無料で提供すると共に新しい注射筒や注射針を配布している。

李洪部長とはこの時以来たいへん親しくなった。

彼は「雲南省各地にある地域の CDC を訪問し、地域の保健行政担当者と意見交換しながら、風光明媚な雲南省を知り、HIV 流行の実情を見て欲しい」と私に提案した。

IV. 中国の行政区分と CDC

中国疾病予防控制中心（Chinese Center for Disease Control and Prevention：中国 CDC あるいは China CDC）について少々説明しておこう。

中国の行政区分は4段階からなっている（表1）。

表1 中国の行政区分

	行政区	
1	省級	22省(province)、5自治区(Autonomous region)、4直轄市(municipality)
2	地級	自治州(prefecture)、地区(prefecture)、地級市(prefecture-level city)
3	県級	県(county)、県級市(county-level city)
4	郷級	郷(township)、鎮(town)

省級には山東省、浙江省などの22省、チベット、新疆ウイグルなどの5自治区、北京、天津、上海、重慶などの4直轄市などが入る。中国で人口が最も多いのは広東省で1億人を超える(2010年で1億400万人)。つまり省級は国ほどの大きさがあるということである。ちなみに雲南省は人口約4,600万人で第12位である(2010年のデータ)。次いで地級という行政区分があり、自治州、地区、地級市の区別があるが日本の県に近い感覚である。地級の下には県級という行政区分があり、こちらがむしろ日本の市に近い。さらに小さい区分は郷級と呼ばれる。英語で Country-Province-Prefecture-County-Town (あるいは Township) というと大きさをイメージしやすいが、漢字表記を日本人の感覚で眺めると、州が省より小さいこと、県が市より小さいことなど若干違和感がある。

中国 CDC は中国衛生部の管轄下にあり、名称こそ米国的であるが、米国の CDC がアトランタに1箇所あるのと比較して、中国 CDC は行政区分に

じてそれぞれ CDC がある。すなわち、国レベルの中国 CDC が北京市郊外にあり、省 (province) レベルの CDC が各省の省都にある。また地級 (prefecture) レベル、県級 (county) レベルにも CDC があり、国レベル、省レベル、地級レベル、県級レベルがピラミッド構造を形成し、上が下を指導する組織となっている。李洪部長によれば、毛沢東時代に中国が盛んにソ連のシステムを取り入れた頃にできた組織構造らしい。

私の雲南 CDC 周遊は2010年から始まった。

文 献

- 1) 鎌田浩毅「地球の歴史(下)」中央公論新社。2016年。
- 2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/雲南省>
- 3) 岩本愛吉「感染症研究ネットワーク シリーズ4: 東京大学医科学研究所『中国における感染症共同研究拠点プロジェクト』」モダンメディア54巻4号 p.6-11、2008年。
- 4) 厚生労働省・医薬・生活衛生局・監視指導・麻薬対策課「薬物乱用の現状と対策」平27年11月。